

令和2年度 呉羽高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動(学習指導の充実)	
重点課題	家庭学習の充実と教科指導力の向上	
現 状	<p>① 本校生徒の進学志望達成のためには、日々の授業を大切に、生徒が計画性をもって自発的に学習に取り組むことが必要であるが、各学年の目標とする家庭学習時間は確保されていない現状である。生徒の実態把握に努め、生徒が主体的にかつ具体的に学習計画を立てて実践できるようになるための指導が必要である。</p> <p>② 新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の改善について、互見授業を活用して、各教科部会を中心に研修している。互いの授業を参観する機会は増えているが、指導内容や指導方法についてさらなる授業研究が必要である。基礎学力の定着を図りながら発展的な思考を引き出し、個性・能力の開発・伸長を図るための授業方法を工夫する必要がある。</p>	
達成目標	<p>①生徒の平日家庭学習時間</p> <p>1年生 2.0時間以上 2年生 2.5時間以上 3年生 3.0時間以上 ※学習実態調査より</p>	<p>② 互見授業に参加した教員の割合</p> <p>③ 授業改善のための校内研修(教科・学年)に参加した教員の割合</p>
	① 70%以上	② 90%以上 ③ 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習実態調査、日々の授業や面接を通して生徒の学習状況を把握すると共に、生徒に自発的に学習する習慣を身につけさせ、学習内容の充実を図り、最低限の学習時間を確保させる。</li> <li>各教科からの週末(週間)課題について、生徒が自発的に取り組むことが出来るように、その内容や分量の充実を図る。</li> <li>「生徒学習記録表」を活用して、進路指導部や学年と連携しながら、生徒一人一人に合った学習内容の充実と学習時間増加推進に取り組ませる。個人面接等では、「生徒学習記録表」を見ながら指導を継続していくことにより目標達成を図る。</li> <li>学習実態調査の結果から家庭学習の内容や取り組みの実態を把握・分析し、家庭学習の充実につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的・対話的に学ぶことを目指してアクティブラーニング等を意識的に授業に取り入れるよう働きかける。実践例等を紹介し、授業実践の相互見学を通して理解を得られるように努める。</li> <li>互見授業週間を設定し、様々な授業を見学できるように、教科の枠を外して自由に見学に行く。</li> <li>互見授業後の振り返りや、学校外で行われる研修会や公開授業への参加報告など授業改善のための校内研修を実施する。</li> <li>ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について研究を進める。</li> </ul>
達成度	<p>①1年：達成できず (1学期：63.6% 2学期：46.3%) 2年：達成できず (1学期：24.9% 2学期：25.9%) 3年：達成できず (1学期：31.8% 2学期：59.5%)</p> <p>② 約70% ③ ほぼ達成した</p>	
具体的な取組状況	<p>① 学習実態調査、面接、質問教室などを活用し、各学年が生徒の学習に対する意識の高揚を図っている。</p> <p>② 今年度の互見授業週間は休校のため、2学期のみの実施となった。「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業を立案、実施するよう呼びかけた。今年度は各教室にICT環境の整備が行われ、効果的に授業に取り入れることができたようになった。</p> <p>③ 遠隔授業のための環境整備や研修を行い、ほぼ全員が参加した。また、ICTを効果的に利用するための研究を進めた。</p>	
評 価	<p>① C ① 1学年の1学期と3学年の2学期では、目標に近い割合となっているが、どの学年でも目標を達成できなかった。3年では目標には届かなかったが、1学期から2学期にかけて大きく増加した。</p> <p>② C ②③ 互見授業等を通して、新学習指導要領に対応した授業改善への取り組みについては、ほとんどの教員に浸透しているが、今年度は、休校のため1学期の互見授業週間を実施できなかったこともあり、参加できた教員がやや減少した。遠隔授業のための研修や、ICTを利用した授業研究については意識の高まりを感じた。</p> <p>③ B</p>	
学校評議員の意見	<p>自発的な学習は大学進学だけでなく、その後の人生においても重要な能力となる。本人が自覚するためには強制よりも共感が必要。子どもたちのため、長期的視野に立った、かつ迅速な対応をお願いしたい。</p>	
次年度に向けての課題	<p>家庭学習の定着、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善、ICTの効果的な活用等は、相互に影響し合い関連して子どもたちの成長を左右していく。これらのことを総合的に捉えた指導の充実を目指したい。</p>	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった